

# [ 建設 ] 課 経 営 計 画 書 ( 総 括 表 )

## ■事務事業の総括

No.	事務事業名	様式 区分	H30 年度計画額 (単位: 千円)		H30 年度必要人工	
			計画額	内特定財源	職 員	臨時職員
1	土地改良事業	B	52,644	9,270	0.6	0.0
2	道路整備事業	B	128,828	18,702	0.9	0.7
3	橋りょう維持管理事業	B	61,508	6,600	0.6	0.0
4	橋りょう整備事業	A	27,940	0	0.3	0.1
5	地方道路等整備事業	A	335,727	256,149	1.4	0.3
6	河川排水路整備事業	B	121,108	65,707	0.6	0.0
7	街路整備事業	A	74,491	46,903	0.2	0.1
8	公共下水道運営管理事業	B	286,682	241,947	0.8	0.3
9	公共下水道整備事業	A	467,698	340,259	1.1	0.2
10	農業集落家庭排水事業	A	22,711	11,901	0.5	0.2
合 計			1,579,337	995,237	7.0	2.0

## ■特記事項

--

# 事業別経営計画書【B】

## ■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課		No.	01
事業名	土地改良事業			
総合計画の体系	基本目標	5	未来へと引き継ぐ環境保全とまちの活力を創造する	
	基本政策	(2)	産業・経済	
目的	農業経営の合理化を図るため、用排水路の計画的な維持管理を行う。			
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化の進んだ土地改良施設の更新を行い、農業労力の軽減、農業用車両の安全確保及び、用排水路の通水不良の改善等、農業経営の合理化を図る。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路、河川及び橋りょう工事を含め合理的に整備ができるように計画的な改修及び修繕。</li> <li>・用排水路改修の調査検討</li> </ul>	
現在における経過又は課題	<p>○施設の老朽化が進み、要修繕箇所が増大している。営農に支障をきたす箇所においては緊急的に修繕をする必要があるが、広域的段階的に改修を進めていくには、財政的にも将来の土地利用状況を想定しても困難状況である。平成 28 年度に土地改良施設の再整備に向け県営土地改良事業として整備できるよう、基礎調査及び計画策定を行った。平成 29 年度に県営事業での採択を行うことで調整をした結果、採択を予定した事業制度の内容に合わなくなったことから、手続きを見送った。</p> <p>○県営土地改良事業（合瀬川地区）により荒井堰掛りのパイプラインが完成し、供用開始にむけて平成 28 年度パイプラインの試験運用を行ったが、水量の配分等に問題が生じた事などから、事業期間を 1 年延長し調整することとなった。</p>			
平成 30 年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県費補助を活用し整備効果が上がるよう、計画的かつ合理的に整備していく。</li> <li>○平成 28 年度から進めている土地改良施設の再整備に向けて事業種別を選定し、国（団体営土地改良事業）の事業採択をもらえるようにする。</li> <li>○水管理の効率化、杣守管理の安全性の向上と施設管理の簡素化を図るため、荒井堰掛かりの合瀬川パイプラインについて、通常配水へ移行できるよう課題の解消に努める。</li> </ul>			

## ■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4 ～ 7	合瀬川パイプライン用水管理
9	単独土地改良事業の認可申請 認可（予定）
11 ～ 3	認可受けた施設の改修工事の発注  完了

## □3年間の目標

目標	老朽化した用排水路について、平成 24 年度に作成の用排水路施設台帳を基に、平成 28 年度は引き続き維持管理（改修・修繕・補修）計画を策定する。平成 30 年度は、団体営事業（国庫補助）採択に向けて事業計画採択申請を行う、また平成 31 年度以降は、調査設計及び工事の事業実施を行う。（達成年次 平成 37 年目標）					
項目（単位）	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 計画	H31 目標	H32 目標
土地改良施設再整備		基礎調査	事業調整	事業調整	国費採択申請	事業実施

## □2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H30 年度	施設整備計画に沿った事業実施（県営事業及び町単独事業） 団体営事業採択申請書作成
H31 年度	施設整備計画に沿った事業実施（県営事業及び町単独事業） 団体営事業採択

## ■事業コスト

		単位	H28 年度決算額	H29 年度当初予算額	H30 年度計画額
事業費		千円	43,216	79,590	52,644
(内特定財源)		千円	11,934	27,236	9,270
人工	職員	人	0.40	0.40	0.60
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00
	計	人	0.40	0.40	0.60

## ■平成 30 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
単独土地改良事業費補助金	9,270	工事請負費
合計	9,270	

## ■平成 30 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
13	農業生産基盤等整備計画調査委託料	0	△34,611	土地改良施設の更新改良事業に向けた調査費用の減
19	新濃尾木津用水路改修工事橋梁移設負担金	0	△7,512	新木津用水路改修に伴う苗田橋、長者橋の移設撤去負担金の減

## ■特記事項

維持管理費の増加を抑制し、施設を長持ちさせるため、予防保全(計画的にメンテナンスを行うこと)を目指し、補助金等を効果的に活用し施設の延命を図る。

昭和 40 年代に整備された用排水施設老朽化が進行しているため維持管理計画を策定する。

## ■目標又は改善策に対する取組内容

- 単独土地改良事業として県費補助等を活用し、一本松地区始め2地区の用水路を整備（延長 L = 512.7m）を行い、営農環境の改善を図った。
- 県営土地改良事業により老朽化した農業用施設を、団体営土地改良事業（事業主体：町）として整備できるように採択申請を行った。
- 平成 29 年度に引き続き荒井堰掛かりの合瀬川パイプラインについて、通常配水へ移行できるよう灌漑期に通水を行い、営農に支障が出ないよう調整を行った。

## ■評価

- 用水路の改修により漏水等による水管理の軽減が図れた。
- 農道 3 路線、排水路 6 路線の改修に目途が立った。
- パイプラインを利用することで、水管理時のゲート操作の安全性が向上し、管理の省力化が図れた。

# 事業別経営計画書【B】

## ■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課	No.	02
事業名	道路整備事業		
総合計画の体系	基本目標	3	災害や犯罪に強く豊かな生活基盤を創造する
	基本政策	(2)	生活基盤
目的	道路の改良により、安全で安心な生活環境を確保する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路計画の策定</li> <li>・道路用地の購入</li> <li>・道路拡幅、改良工事の設計</li> <li>・道路拡幅、改良工事の施工</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要道路の舗装修繕計画の策定</li> </ul>
現在における経過又は課題	<p>○道路修繕については、舗装の修繕を計画的に実施しているものの、予定している交付金（国庫補助）が要望額の約40%程度と少なく、計画通りに進んでいないのが現状であり、修繕計画の見直しと財源の確保を行う必要がある。また、現在の舗装修繕計画の完了の目途が立ってきたことから、主要路線に対して新たな舗装修繕計画策定する必要があるが生じている。</p> <p>○幅員4m未満の狭小道路の整備においては、町内の各地区で整備を行ってきている。</p> <p>○交通量が多く歩行者の安全確保が必要な路線であっても、歩道が設置されていない路線があるため、歩道設置工事を行う必要がある。</p>		
平成30年度の目標又は改善策	<p>○地権者の用地買収同意が得られた狭小道路について、用地買収を進め4m以上の道路幅員が確保できるようにする。</p> <p>○区要望との整合性を図りながら、中期的な歩道整備等道路整備計画の策定を行い、整備順位と予算確保を行い、安全な生活環境の整備を図る。</p> <p>○交付金の減少などから、現在の長期的な主要町道舗装修繕計画の見直しを行い、緊急度が高いなどの優先順位を定め修繕を実施（交付金事業）する。また、交付金事業で対応できない路線について、効果的な工法を採用することにより、経費の削減を図る。</p> <p>○舗装の劣化による事故防止のため、主要路線に対して新たな修繕計画を策定する。</p>		

## ■作業工程（当該年度）

月	作業内容
随時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路用地の購入</li> <li>・道路改良工事の設計、施工（用地、用水時期等条件の整ったものから） 町道上小口47号線改良工事（用地交渉）</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舗装修繕計画調査</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町道西部線歩道設置工事</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大屋敷62号線歩道整備工事、町道上小口47号線改良工事</li> </ul>

## □3年間の目標

目標							
	項目（単位）	H27実績	H28実績	H29計画	H30目標	H31目標	H32目標

## □2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H31年度	
H32年度	

## ■事業コスト

		単位	H28 年度決算額	H29 年度当初予算額	H30 年度計画額
事業費		千円	142,401	195,534	128,828
(内特定財源)		千円	0	16,500	18,702
人工	職員	人工	1.00	1.00	0.4
	臨時職員	人工	0.20	0.20	0.7
	計	人工	1.20	1.20	1.1

## ■平成 30 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
舗装修繕事業費補助金	16,500	道路改良工事費
明日のまちづくり基金	2,202	道路改良工事費
合計	18,702	

## ■平成 30 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
13	予備設計委託料	0	△14,117	町道秋田 21 号線交差点協議のため
13	道路修繕計画策定委託料	16,546	16,546	既計画の完了に伴う新たな修繕計画策定のため

## ■特記事項

--



## ■目標又は改善策に対する取組内容

- 狭小道路として町道上小口 36 号線の整備を行った。また、町道豊田 50 号線、町道上小口 47 号線について、4m以上の道路幅員が確保できるよう地権者との用地交渉を進めた。
- 通学者等歩行者自転車の安全確保のため、町道西武線の歩道整備工事、町道大屋敷 62 号線の拡幅工事等に着手した。
- 主要町道舗装修繕計画に基づき、緊急度が高いなどの路線（町道役場南線）を選定し、舗装修繕を行った。
- 舗装の劣化による事故防止のため、主要路線に対して新たな修繕計画を策定した。

## ■評価

- 町道上小口 36 号線を 4.5m として拡幅できたことで、緊急車両の進入が可能となった事と通学する生徒の安全確保ができた。
- 町道豊田 50 号線、町道上小口 47 号線の拡幅のための地権者との概ねの同意が得られた。
- 町道西武線及び町道大屋敷 62 号線の歩道等を整備したことで、通学通勤者の安全確保ができた。
- 舗装の劣化が著しい区間の舗装を修繕したことで、轍の解消と通行車両の安全確保ができた。

# 事業別経営計画書【B】

## ■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課	No.	03
事業名	橋りょう維持管理事業		
総合計画の体系	基本目標	3	災害や犯罪に強く豊かな生活基盤を創造する
	基本政策	(2)	生活基盤
目的	安全で安心した生活環境を維持するため、橋りょうの長寿命化を図る。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 橋りょうの長寿命化修繕計画の策定</li> <li>・ 橋りょうの修繕工事の設計</li> <li>・ 橋りょうの修繕工事の施工</li> <li>・ 橋りょうの維持管理</li> </ul>		
現在における経過又は課題	<p>○既存の管理橋りょうの多くは高度経済成長期に建設され、老朽化が進行している。道路法の改正により、これらの橋りょうについて適切な維持管理のもと長寿命化を図ることが義務付けられたことから、平成 22、23 年度に橋長 15m 以上の橋りょう及び 1・2 級町道及び緊急輸送道路にかかる橋長 2m 以上の橋について全体 86 橋のうち 37 橋の現状把握と橋りょう点検を行った。平成 24 年度には、この点検結果を用い、橋りょう長寿命化修繕計画策定を実施している。また、平成 29 年度には、橋長 15m 未満の 49 橋中、24 橋の点検を実施し、今後、残りの 25 橋の調査と計画策定が必要となっている。</p> <p>○10 年間の修繕計画では予算の平準化した金額を計上しているが、このほか、架け替え相当判定の橋があること、また、点検は 5 年ごとに行うこととなっており、予算の確保について留意する必要がある。</p> <p>○修繕工事については、平成 24 年度に作成した修繕計画（10 年間で 24 橋）に基づき、平成 26 年度から交付金事業として修繕（H26 4 橋、H27 2 橋、H28 4 橋、H29 2 橋）をしたが、橋りょうの老朽化が想定以上に進んでいるものもあり、実施事業費が当初の予定よりも嵩んできている。</p>		
平成 30 年度の目標又は改善策	<p>○点検が済んでいない 25 橋について、平成 30 年度以降に実施できるよう計画の策定を行う。</p> <p>○昨年度に引き続き、点検済橋りょう（竹橋・竹橋歩道橋・堀尾橋・天神塚橋・矢戸小橋 合計 5 橋）の修繕工事を施工する。</p>		

## ■作業工程（当該年度）

月	作業内容
6 ~12	H30 修繕対象橋りょうの修繕工事
10 ~3	

## □3年間の目標

目標						
項目（単位）	H27実績	H28実績	H29実績	H30計画	H31目標	H32目標
橋りょう長寿命化修繕計画	点検・ 見直し	点検・ 見直し	点検・ 見直し	点検・ 見直し	点検	点検
橋りょう修繕	実施	実施	実施	実施	実施	実施

## □2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長寿命化修繕計画に基づき修繕（交付金事業）</li> <li>・長寿命化修繕計画に基づき橋りょう点検（点検を行っていない橋りょうを対象）</li> </ul>
H31年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長寿命化修繕計画に基づき修繕（交付金事業）</li> <li>・長寿命化修繕計画に基づき橋りょう点検（点検を行っていない橋りょうを対象）</li> </ul>

## ■事業コスト

		単位	H28 年度決算額	H29 年度当初予算額	H30 年度計画額
事業費		千円	25,620	32,470	61,508
(内特定財源)		千円	7,755	8,800	6,600
人工	職員	人工	0.40	0.30	0.30
	臨時職員	人工	0.00	0.20	0.00
	計	人工	0.40	0.50	0.30

## ■平成 30 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
橋りょう修繕事業費補助金	6,600	橋りょう維持管理事業
合計	6,600	

## ■平成 30 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容

## ■特記事項

平成 26 年度以降は、長寿命化修繕計画に基づく修繕及び 5 年ごとの点検業務を行うことになるため、毎年 3000 万円程度の橋りょう維持管理事業費が必要になる。これ以外に、道路ストック総点検により各自治体は管理橋りょう全てについても、同様の点検を行うことが義務付けられている。

## ■目標又は改善策に対する取組内容

- 橋りょう点検が済んでいない橋長15m以下の24橋他1橋について、点検を行った。
- 点検済橋りょう（竹橋・竹橋歩道橋・長年橋 合計3橋）の修繕工事を行った。

## ■評価

- すべての橋りょうについて点検が終わったことで、橋りょうの安全性を確認できた。また、修繕が必要な橋りょうの把握ができた。
- 竹橋・竹橋歩道橋・長年橋を修繕したことで、安全性の確保が図れた。

# 事業別経営計画書【A】

## ■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課	No.	04
事業名	橋りょう整備事業		
総合計画の体系	基本目標	3	災害や犯罪に強く豊かな生活基盤を創造する
	基本政策	(2)	生活基盤
目的	安全で安心した生活環境を維持するため、橋りょうの架け替え、拡幅、歩道設置等を図る。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・橋りょうの整備工事の設計</li> <li>・橋りょうの整備工事の施工</li> </ul>		
現在における経過又は課題	<p>○平成 24 年度に作成した橋りょう長寿命化修繕計画において、雫子野橋は、橋りょう点検において、架け替え相当と診断されていることから、早期に対応するため、平成 29 年度に工事を実施し通行の安全を図った。このほかにも、修繕対応としている橋のうち、架け替えが相当と判断すべき橋（竹橋歩道橋）も 1 橋ある。これらの橋の架け替え計画について、事業費算定とともに、周辺交通への影響も精査する必要がある。</p> <p>また、平成 26 年度に補修設計した河北橋についても修繕費算出のために追加設計を要するため、架け替えを含めた検討をしなければならない。さらに、町道野合線の渋滞緩和と合わせて合瀬川に架かる柿野橋の交通需要に合わせた架け替えが必要となっている。</p>		
平成 30 年度の目標又は改善策	○柿野橋について、架け替え工事に向けた測量設計を実施する。		

## ■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4 5 ～	柿野橋 測量設計委託発注
9 ～	河川管理者協議、公安委員会協議 周辺企業対策・占用者協議

## □3年間の目標

目標	・ ・					
項目（単位）	H27実績	H28実績	H29実績	H30計画	H31目標	H32目標
橋りょう長寿命化修繕 計画に基づく橋梁整備		設計 雉子野橋	工事 雉子野橋	設計 柿野橋	工事 柿野橋	工事 柿野橋

## □2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H31年度	・柿野橋の架け替え工事に着手する。
H32年度	・柿野橋の工事に着手し、平成32年度に竹橋歩道橋架け替え工事ができるように準備する。

## ■事業コスト

		単位	H28 年度決算額	H29 年度当初予算額	H30 年度計画額
事業費		千円	16,805	80,000	27,940
(内特定財源)		千円	0	70,000	0
人工	職員	0.20	0.40	0.40	0.30
	臨時職員	0.00	0.00	0.00	0.10
	計	0.20	0.40	0.40	0.40

## ■平成 30 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
合計		

## ■平成 30 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
13	柿野橋架替工事詳細設計	27,940	27,940	柿野橋の架け替え工事のための設計委託料
15	雉子野橋架替工事	0	△70,000	雉子野橋架け替え工事

## ■特記事項

橋りょうの架け替え工事については、周辺事業所等の交通確保についての検討が必要であり、事前に公安委員会を含めた協議も必要となる。



## ■目標又は改善策に対する取組内容

○柿野橋の架け替えのため詳細設計及び河川占用協議を行った。

## ■評価

○柿野橋架け替えの計画が確定したことで、工事実施が可能となった。

# 事業別経営計画書【B】

## ■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課	No.	05
事業名	地方道路等整備事業		
総合計画の体系	基本目標	3	災害や犯罪に強く豊かな生活基盤を創造する
	基本政策	(2)	生活基盤
目的	道路の改良により、安全で安心な生活環境を確保する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道路計画の策定</li> <li>・ 道路用地の購入</li> <li>・ 道路拡幅、改良工事の設計</li> <li>・ 道路拡幅、改良工事の施工</li> </ul>		
現在における経過又は課題	<p>○国道41号6車線化に伴う、公安委員会との外坪交差点協議が整い、平成29年度に整備に着手。歩行者の安全確保のための歩道設置に必要な用地確保や交差点の拡大に伴う用地確保ができたころから、交差点供用に向け歩道整備が必要となっている。</p> <p>○町道布袋小牧線については、沿線の住民の同意が得られたことから、工事に着手するため平成28年度に用地測量、詳細設計を実施した。平成29年度から拡幅への影響範囲の支障物件の移転補償等の交渉を行い約89%の用地買収が完了した。</p> <p>○平成28年度に将来の土地利用や交通需要などとの整合を図るため、道路規格の変更や土地利用計画の見直しなど道路計画において見直しを行った。道路整備においては、優先順位をつけ計画的な整備を進める必要がある。</p> <p>○農道等の法面（土羽）を擁壁とすることで、道路幅員の確保と維持管理費の軽減及び耐震性に向けて整備個所の選定を行い、平成27年度から工事に着手してきた。交通量が多く危険性が高い路線を選定し、整備する必要がある。</p>		
平成30年度の目標又は改善策	<p>○国道41号と町道内津々線の平面交差点化に合わせ、町道内津々線の安全対策工事（歩道設置）を完了する。</p> <p>○町道布袋小牧線が早期に拡幅できるように、用地交渉を進め協議が整い次第、用地買収を行う。また、道路改良工事を並行して施工する。</p> <p>○町道内津々線未改良区間において、歩行者の安全対策（歩道設置）ができるよう、用地買収を進め、改良工事を施工する。</p> <p>○交通量が多く危険性が高い町道秋田21号線改良事業に着手する。</p>		

## ■作業工程（当該年度）

月	作業内容
随時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路用地の購入</li> <li>・道路改良工事の設計、施工</li> </ul> 町道内津々線改良工事（用地取得・交差点改良・歩道設置）及び周辺道路整備 町道布袋小牧線改良工事（用地取得）

## □3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町道内津々線改良工事</li> <li>・町道布袋小牧線改良工事</li> </ul>					
項目（単位）	H27実績	H28実績	H29実績	H30計画	H31目標	H32目標
町道内津々線	計画策定	実施設計	工事着手	改良工事	改良工事	
町道布袋小牧線	計画策定	実施設計	工事着手	改良工事	改良工事	改良工事

## □2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町道内津々線：国道41号交差点から県道宮後小牧線（榊青山製作所南）までの整備計画を策定し、未整備区間について整備着手を行う。</li> <li>・町道布袋小牧線：29年度に引き続き用地買収と物件補償及び部分的な整備</li> </ul>
H31年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町道内津々線：未整備区間について整備を行う。</li> <li>・町道布袋小牧線：用地買収と物件補償及び部分的な整備</li> </ul>

## ■事業コスト

		単位	H28 年度決算額	H29 年度当初予算額	H30 年度計画額
事業費		千円	0	289,211	335,727
(内特定財源)		千円	0	200,000	256,149
人工	職員	人工	0	0	0.4
	臨時職員	人工	0	0	0.3
	計	人工	0	0	0.7

## ■平成 30 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
地方道路等整備事業債	200,000	工事請負費他
交通安全対策事業費補助金	19,250	工事請負費
道路改良費補助金	17,500	工事請負費
明日のまちづくり基金	19,399	工事請負費他
合計	256,149	

## ■平成 30 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容

## ■特記事項

--

## ■目標又は改善策に対する取組内容

- 国道41号と町道内津々線の平面交差点化に合わせ、町道内津々線の安全対策工事（歩道設置）を実施した。
- 町道布袋小牧線が早期に拡幅できるように、用地買収を行った。また、道路改良工事を並行して施工した。
- 町道内津々線未改良区間において、歩行者の安全対策（歩道設置）ができるよう、用地買収を行い、改良工事を施工した。
- 町道秋田21号線拡幅に必要な用地買収を行い、改良工事に着手した。

## ■評価

- 町道内津々線（外坪五丁目地内）の歩行者通行帯を設置したことで、通学者の安全確保が図れた。
- 町道布袋小牧線の用地買収が完了したことで、拡幅工事の完成の目途がたった。
- 町道内津々線未改良区間（秋田二丁目地内）の歩道用地の買収が完了し、改良工事の完成に目途がたった。
- 町道秋田21号線改良工事に必要な用地買収（北側工区）が完了し、改良工事の完成に目途がたった。

# 事業別経営計画書【B】

## ■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課	No.	06
事業名	河川排水路整備事業		
総合計画の体系	基本目標	5	未来へ引き継ぐ環境保全とまちの活力を創造する
	基本政策	(1)	環境保全
目的	安全で安心した生活環境を維持するため、河川排水路施設の整備を図る。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 河川排水路の改良工事の設計</li> <li>・ 河川排水路の改良工事の施工</li> </ul>		
現在における経過又は課題	<p>○現在の排水路施設は、土地改良事業により築造された施設が多く、豪雨時の流下能力が不足する水路が多くある。また、老朽化した組み立て水路においては、破損している箇所もあり、早期の改修工事が必要となっているが、財源の確保が課題である。</p> <p>○近年の集中豪雨によって、接続する河川の改修がされていないことから、流下能力が不足している。そのため、内水氾濫による浸水被害が発生する危険性が出ているため、河川排水路の改修と合わせて調整池の整備も必要となっている。</p>		
平成30年度の目標又は改善策	<p>○平成28年度に行った土地改良事業の調査した結果により、新たな事業の種別を選定する。また、市街化及び集落内の排水については、雨水排水計画と調整を図りながら整備手法を検討する。</p> <p>○新宮地区に排水路改修と合わせ、雨水貯留施設の設置を行う。</p>		

## ■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	県費 認定申請（雨水貯留施設）
6	県費 交付申請
8	排水路改修及び貯留施設工事発注

## □3年間の目標

目標							
	項目（単位）	H26実績	H27実績	H28実績	H29計画	H30目標	H31目標

## □2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H30年度	
H31年度	

## ■事業コスト

		単位	H28 年度決算額	H29 年度当初予算額	H30 年度計画額
事業費		千円	2,484	0	121,108
(内特定財源)		千円	0	0	65,707
人工	職員	人工	0.50	0	0.4
	臨時職員	人工	0.40	0	0
	計	人工	0.90	0	0.4

## ■平成 30 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
県補助金(河川改良費補助金)	21,600	工事請負費
合瀬川左岸排水路付替工事負担金	44,107	工事請負費
合計	65,707	

## ■平成 30 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
15	排水路整備工事費	121,108	121,108	排水路改修工事(調整池機能あり)及び合瀬川左岸排水路付替工事

## ■特記事項

--



## ■目標又は改善策に対する取組内容

- 平成 28 年度に行った土地改良事業の調査した結果により、新たな事業の種別を選定し、排水路の改修計画の策定を行った。
- 新宮地区に排水路改修と合わせ、雨水貯留施設の設置を行った。

## ■評価

- 老朽化した土地改良施設（排水路）について、土地改良団体営事業で整備することが可能となり、整備方針に目途が立った。
- 新宮地区に排水路の改修と併せ雨水貯留施設（第 1 期工事）を整備したことで、治水安全度が向上した。

# 事業別経営計画書【A】

## ■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課	No.	07
事業名	街路整備事業		
総合計画の体系	基本目標	2	未来へ引き継ぐ環境保全とまちの活力を創造する
	基本政策	3	自然と共生した地域社会づくり・良好な生活環境の確保
目的	<p>国道41号や国道155号（北尾張中央道）といった広域幹線道路へのアクセスを強化し、集落内の通過交通を排除するため、町内の円滑な道路交通ネットワークの実現に向けて都市計画道路愛岐南北線及び江南大口線、町道役場前線、小口線等の整備を推進する。</p>		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町道小口線並びに役場前線等に関する道路整備に係る事業</li> <li>・ 都市計画道路愛岐南北線、江南大口線等の用地取得事務</li> </ul>		
現在における経過又は課題	<p>町道小口線並びに役場前線については、現在の未整備区間が、小口線＝918m（県道小口岩倉線～町道大口桃花台線）、役場前線＝276m（役場以東～小口線との交差点）あるが、この路線の早期整備に向け、五条川右岸（小口線の県道小口岩倉～樋田橋間（480m）＋役場前線（280m））を先行して着手していくために、地権者の理解を得ながら、用地を確保する必要がある。</p>		
平成30年度の目標又は改善策	<p>○地元地権者等への理解を図り、引き続き土地取得特別会計において、用地の先行取得に努める。また、先行取得を行った用地の適正な管理を行うとともに、町道役場前線の先行整備を計画的に行う。</p> <p>○町道役場前線の整備工事の実施。</p>		

## ■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4～ ～3	役場前線整備工事 H30・・・用地交渉 税務署事前協議 契約締結 前払金の支払 繰越し手続き 登記、土地の引渡し 完了払い

## □3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この道路の必要性を地権者等にご理解していただき、事業に係る用地についての同意を得る。</li> <li>・道路整備工事の実施設計</li> </ul>					
項目（単位）	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標	H31目標	H32目標
関係地権者累計（30） 用地取得（パーセント）	20	28	37	50	77	100
町道小口線（22）	0.4	10	14	30	70	100
町道役場前線（8）	90	90	100			
実施設計・工事 （役場前線）		工事	休工	工事	工事	工事

## □2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用地交渉（小口線）</li> <li>・工事（役場前線）</li> </ul>
H31年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用地交渉（小口線）</li> <li>・工事（役場前線）</li> </ul>

## ■事業コスト

		単位	H28 年度決算額	H29 年度当初予算額	H30 年度計画額
事業費		千円	1,6300	32,880	74,491
(内特定財源)		千円	1	5,001	46,903
人工	職員	人工	1.1	1.6	0.2
	臨時職員	人工	0.1	0.1	0.1
	計	人工	1.2	1.7	0.3

## ■平成 30 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
行政財産目的外使用料	1	街路整備事業
交通安全対策事業補助金	22,000	工事請負費
用地取得交渉損失補償調印	60	街路整備事業
明日のまちづくり基金	24,842	工事請負費
合計	46,903	

## ■平成 30 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
都市計画道路役場前線整備工事	41,500	41,500	役場前線の暫定整備工事 (延長約 70m)
道路用地購入費	24,843	24,843	役場前線先行取得用地の土地取得特別 会計への支出金

## ■特記事項

総事業費として、537,000千円を見込む。

## ■目標又は改善策に対する取組内容

- 地元地権者等への理解を図り、引き続き土地取得特別会計において、用地の先行取得を行った。また、先行取得を行った用地の適正な管理のため、草刈りを実施した。
- 町道役場前線の整備工事のため予算計上をしていたが、交付金配分の配分が無く、事業実施を次年度以降とした。

## ■評価

- 町道小口線用地については、約55%の取得が完了した。
- 町道役場前線整備工事は、交付金配分が無く未実施となった。

# 事業別経営計画書【B】

## ■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課	No.	08
事業名	公共下水道運営・施設管理事業		
総合計画の体系	基本目標	3	災害や犯罪に強く豊かな生活基盤を創造する
	基本施策	(2)	公共下水道事業の健全な経営
目的	公衆衛生の向上に寄与し、併せて公共用水域の水質保全に資するために、下水道の円滑な運営を行うため、整備した下水道の有効利用並びに適切な維持管理を行う。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管路施設維持管理</li> <li>・使用料徴収</li> <li>・地方公営企業決算状況調書作成</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費税申告</li> <li>・工事・供用開始説明会の開催</li> </ul>
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 31 年 4 月 1 日現在の大口町における下水道普及率は、87.2%、水洗化率は、79.5%で、それぞれの数値を向上させる必要がある、特に水洗化については、広報周知、ダイレクトメール等により、未接続者への理解を求めていく必要がある。</li> <li>・農業集落排水施設の公共下水道への編入は、ハード事業はクリーンセンターから県の指定マンホールまでの管渠築造、ソフト事業として条例廃止等を行う必要がある。</li> <li>・地下水位が高い時期に不明水が増加するため対策が必要である。</li> <li>・下水道事業における経理内容の明確化、透明性の向上を図るため、人口 3 万人未満の団体についても令和 6 年度までに移行する旨の国の指導があるため、制度を理解するとともに移行時期を検討する必要がある。</li> <li>・国から下水道整備については今後 7 年での概成が求められるなか、持続可能な下水道事業を実現するためにストックマネジメント計画の策定が必要となる。</li> </ul>		
平成 30 年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水洗化率向上のため、広報での周知、ふれあいまつりでの啓発活動を行い、未接続者に早期接続を促す。</li> <li>・不明水対策として調査、修繕工事の実施を行う。</li> <li>・企業会計への移行に向け、積極的に研修会等に参加し会計制度の理解に努める。</li> <li>・管路改修工事を国庫補助対象と出来るよう、ストックマネジメント計画を策定する。</li> <li>・都市計画区域の見直しを受けて、特環区域を公共区域に統合する。</li> </ul>		

## ■作業工程（当該年度）

月	作業内容
5	不明水調査発注
6	不明水箇所修繕工事発注 地方公営企業決算状況調査作成 ストックマネジメント計画策定検討
9	消費税申告
11	ふれあいまつりにおいて接続啓発
奇数月 毎月 随時	偶数月1日に使用料請求を行うためのデータ入力 特定事業所排水の水質検査 企業会計研修会への参加

## □3年間の目標

項目（単位）	H28 計画	H28 実績	H29 計画	H30 目標	H31 目標	H32 目標
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>					

## □2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H31 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
H32 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>

## ■事業コスト

		単位	H28 年度決算額	H29 年度当初予算額	H30 年度計画額
事業費		千円	285,575	280,047	286,682
(内特定財源)		千円	210,832	235,976	241,947
人工	職員	人工	1.4	1.4	0.8
	臨時職員	人工	0.2	0.1	0.3
	計	人工	1.6	1.5	1.1

## ■平成 30 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
下水道使用料	241,597	下水道使用料徴収業務委託料 流域下水道維持管理費負担金
汚水処理委託料	350	
合計	241,947	

## ■平成 30 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
1-1-1(2)13-5-1 五条川左岸事業認可図書作成 委託料	0	△11,579	基本計画策定完了。
1-1-2(2)11-6-1 修繕料	8,150	6,750	不明水対策 マンホールポンプ交換
1-1-2(2)13-1-1 下水道管路調査委託料	4,969	3,719	不明水調査実施(余野・河北)
1-1-2(2)19-1-3 下水道使用料システム改修費	342	0	元号修正費用
1-1-2(2)14-1-1 電波利用料	5	5	マンホールポンプの異常通報を行う無 線局の電波利用料

## ■特記事項

現在異常通報で使用している無線機は、電波の割り当て改正により使用できなくなるため前回の更新が最終となり、令和4年8月までに機器の更新が必要になる。



## ■目標又は改善策に対する取組内容

- 水洗化率向上のため、広報での周知、ふれあいまつりでの啓発活動を行い、上小口地区の未接続者に早期接続を促すため、戸別訪問を行った。
- 不明水対策として余野地区、仲沖地区の調査を行い、仲沖地区において修繕工事を行った。
- 企業会計への移行に向け、研修会等に参加した。
- 管路改修工事を国庫補助対象と出来るよう、ストックマネジメント計画を策定した。

## ■評価

- 公共下水道を整備したことで、人口普及率が3.5%上昇した。また、普及促進活動を実施した結果、約200名の接続者が増加した。
- ストックマネジメント計画ができたことで、管きょ点検の実施と併せ老朽化対策のための交付金が活用できることとなった。

# 事業別経営計画書【A】

## ■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課	No.	09
事業名	公共下水道整備事業		
総合計画の体系	基本目標	3	災害や犯罪に強く豊かな生活基盤を創造する
	基本施策	(3)	公共下水道事業の整備促進
目的	公衆衛生の向上に寄与し、併せて公共用水域の水質の保全に資するために、計画的な下水道の整備を行う。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下水道管渠の設計並びに工事</li> <li>・下水道整備後の道路舗装本復旧工事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・汚水公共ます、取付管布設工事</li> <li>・五条川左・右岸流域下水道建設事業負担金</li> </ul>	
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・萩島地区において、開発に伴い大口左岸1号幹線他の付替えが必要となる。</li> <li>・平成26年1月に国から示された「持続的な汚水処理システム構築に向けた都道府県構想策定マニュアル」により、今後7年で下水道整備を概成するよう求められており、計画的に整備を行う必要がある。</li> <li>・国道41号の6車線化に伴い、占用物件である下水道施設の支障移転工事が必要である。</li> <li>・農業集落排水施設の公共下水道(右岸)への接続について、事前協議が整ったので引き続き必要な事務、準備を進めるとともに県の流域幹線への接続工事を施工する。</li> </ul>		
平成30年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・萩島地区大口左岸1号幹線他付替えの工事の実施。</li> <li>・10年概成に向け、竹田地区実施設計及び、小口字下之段において下水道管敷設工事を施工する。</li> <li>・国道41号6車線化に伴う支障移転工事を行う。</li> <li>・農業集落排水施設の公共下水道(右岸)への接続工事を平成30・31年の2か年で施工する。</li> </ul>		

## ■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	小口字下之段の一部下水道工事
5	大口左岸1号幹線他付替えの実施設計 農業集落排水施設の公共下水道（右岸）への接続工事
6	舗装復旧工事
9	上小口二丁目及び小口字下之段下水道工事
随時	汚水公共ます、取付管工事

## □3年間の目標

年月日 (実績)	右岸		左岸		合計			行政人口 (人)
	整備面積 累積 (ha)	整備人口 (人)	整備面積 累積 (ha)	整備人口 (人)	整備面積 累積 (ha)	整備人口 (人)	普及率 (%)	
26.4.1	263.3	13,149	276.9	5,710	540.2	18,895	82.4	22,882
27.4.1	263.3	13,430	276.9	5,654	540.2	19,084	82.0	23,260
28.4.1	263.3	13,618	276.9	5,669	540.2	19,287	82.2	23,470
29.4.1	265.3	13,929	276.9	5,664	542.2	19,593	82.5	23,757
30.4.1	269.9	15,201	276.9	5,664	546.8	20,870	87.1	23,959

## □2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H31年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹田地区下水道管渠布設工事</li> <li>・農業集落排水施設接続工事（第2期）</li> </ul>
H32年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹田地区下水道管渠布設工事</li> </ul>

## ■事業コスト

		単位	H28 年度決算額	H29 年度当初予算額	H30 年度計画額
事業費		千円	224,134	317,571	467,698
(内特定財源)		千円	138,031	160,865	340,259
人工	職員	人工	1.4	1.4	1.1
	臨時職員	人工	0.1	0.1	0.2
	計	人工	1.5	1.5	1.3

## ■平成 30 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
下水道受益者負担金	12,000	工事請負費
下水道使用料	24,286	報償費、工事請負費
社会資本整備総合交付金	69,000	工事請負費
工事負担金	87,473	工事請負費
公共下水道事業債	138,500	工事請負費
流域下水道事業債	9,000	流域下水道建設負担金
合計	340,259	

## ■平成 30 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
2-1-1(2)8-1-1 受益者負担金前納報奨金	2,000	1,000	供用開始面積が増加するため。
2-1-1(2)13-5-1 測量実施設計委託料(左岸)	0	△12,777	大口左岸1号幹線他付替えの実施設計が完了のため。
2-1-1(2)13-5-3 測量実施設計委託料(右岸)	35,756	△8,812	農業集落排水施設の接続工事実施設計に替り竹田地区の実施設計を行うため。
2-1-1(2)15-1-1 建設工事費(左岸)	87,473	87,473	大口左岸1号幹線他付替え工事のため。
2-1-1(2)15-1-3 建設工事費(右岸)	274,525	85,775	面整備(下水道管布設工事)区域が大きいことと国道41号支障移転工事実施のため。

## ■特記事項

--

## ■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・トヨタ自動車(株)新部品センター開発工事に伴う、萩島地区大口左岸 1 号幹線他付替え工事を行った。
- ・10 年概成（平成 28 年度策定）に向け、竹田地区実施設計を行った。また、小口字下之段地区において下水道管敷設工事を行った。
- ・国道 41 号 6 車線化に伴う支障移転として、公共下水道管の移設工事を行った。
- ・農業集落排水施設の公共下水道（右岸）への接続するため、幹線管きよの整備を行った。

## ■ 評価

- トヨタ自動車開発工事に伴う下水道幹線移設を行うことで、上流区域使用者のサービスを滞りなく継続できた。
- 計画通り中小口地区の供用開始ができた。
- 国道 41 号 6 車線化事業に支障をきたすことなく移設ができた。
- 令和 2 年 4 月供用に向け計画通り管きよの施工ができた。

# 事業別経営計画書【B】

## ■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課	No.	10
事業名	農業集落家庭排水事業		
総合計画の体系	基本目標	3	災害や犯罪に強く豊かな生活基盤を創造する
	基本施策	(4)	公共下水道計画区域外における汚水処理対策の推進
目的	農村地域における資源循環の促進を図りつつ、農業用水の水質保全、農業用水施設の機能維持又は農村の生活環境の改善を図る。併せて、公共用水域の水質保全に寄与するため、農業集落におけるし尿、生活雑排水などの汚水を処理する施設、汚泥、処理水の循環利用を目的とした施設等の整備又は改築を行い、生産性の高い農業の実現、活力ある農村社会の形成及び循環型社会の構築に資する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地方公営企業決算状況調査作成</li> <li>・ 消費税申告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設維持修繕</li> <li>・ 新規接続工事</li> </ul>	
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昭和 58 年度に事業着手し、平成 3 年度の大口クリーンセンターの供用開始を挟み平成 4 年度に工事完了、平成 5 年 4 月 1 日に全域供用開始した。供用後 25 年以上を経過していることから、大口クリーンセンターについては、全面的な設備更新が必要になってきており、平成 32 年度に五条川右岸処理区への編入を目指し、手続きが終了した。農集区域を公共下水道に接続するにあたり、不明水量を減らす必要があることから、平成 27 年度から埋設深が大きい区間のマンホール、及び管口の調査、修繕工事を行っている。</li> <li>・ 公共下水道に接続するまでは、必要最低限の機械設備等の更新を行う。</li> <li>・ 汚水処理施設（大口クリーンセンター）が不要となるため、跡地利用等の財産処分方針について国と協議し、補助金返還が不要となる条件で財産処分の申請は、完了した。</li> </ul>		
平成 30 年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 32 年 4 月の公共下水道への編入に向けて、引き続きマンホール管口及び管渠の不明水調査、補修を行う。</li> <li>・ マンホールポンプについては、編入後も使用するため適正な維持管理を続ける。大口クリーンセンターについては、脱水機のろ布交換を行う。</li> <li>・ 平成 30、31 年度に、大口クリーンセンターから江南市にある五条川右岸流域幹線への接続工事を施工する。</li> </ul>		

## ■作業工程（当該年度）

月	作業内容
5	不明水調査発注
6	不明水箇所補修工事発注
	地方公営企業決算状況調査作成
9	消費税申告
	脱水機ろ布交換
随時	大口クリーンセンター及びマンホールポンプ保守管理
	使用料徴収事務
	新規接続にかかる取付管、公共ます設置工事

## □3年間の目標

項目（単位）	H28 計画	H28 実績	H29 計画	H30 目標	H31 目標	H32 目標
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>					

## □2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H31 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
H32 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>

## ■事業コスト

		単位	H28 年度決算額	H29 年度当初予算額	H30 年度計画額
事業費		千円	19,737	21,998	22,711
(内特定財源)		千円	13,587	11,902	11,901
人工	職員	人工	0.7	0.7	0.5
	臨時職員	人工	0.1	0.1	0.2
	計	人工	0.8	0.8	0.9

## ■平成 30 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
農業集落家庭排水分担金	1	維持管理事業
農業集落家庭排水使用料	11,900	維持管理事業
合計	11,901	

## ■平成 30 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
1-1-2(2)11-6-1 修繕料	3,300	1,420	処理場の劣化が進行しているため多く見込む
1-1-2(2)15-1-1 工事請負費	3,045	△2,845	実績を基に不明水対策費を見直した。

## ■特記事項

平成 32 年 4 月に五条川右岸流域水道に編入。



## ■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・ 不明水を減少させるため、その発生場所の特定できるようスクリーニング調査を行った。
- ・ 平成 32 年 4 月の公共下水道への編入に向けて、大口クリーンセンターから江南市にある五条川右岸流域幹線への接続工事を施工した。

## ■ 評価

- 不明水スクリーニング調査を実施したことで、ある程度の発生範囲を特定できた。
- 公共下水道への編入に向け、計画通り工事を進めることができた。